

## 平成30年度施政方針

本日ここに、平成30年第1回定例議会を招集致しましたところ、議員各位にはご多忙中にもかかわらず、ご出席いただき厚くお礼申し上げます。また、平素の町政全般にわたるご支援、ご協力に対し、深く謝意を表するものでございます。

まず、このたびの住宅及び清掃工場における不適切な事務処理により、町民の皆様の信頼を大きく失墜させ、ご心配とご迷惑をおかけしていることについて、行政の長として責任を痛感しているところです。

今後、このような事態を二度と起こさないという決意を持って、町民からの信頼を取り戻すべく町政に努めてまいりたいと考えています。

関係職員につきましては、外部委員会等の検証を踏まえて処分を行う予定でございますが、私自身につきましては、給料額の減額による処分と考え、具体的には3ヶ月間、20%を減額してまいります。なお、昨年より実施しております財政健全化に伴う1年間、15%の減額も引き続き実施してまいります。

さて、今議会においては、平成30年度の一般会計及び特別会計並びに企業会計それぞれの予算案と、それに関連する諸議案を提出致しましたので、本町の現況と、将来あるべき姿を展望しながら、30年度の町政に対する基本方針と施策の一端を申し述べ、議員各位をはじめ町民皆様のご理解とご協力を賜わりたいと存じます。

さて、我が国の社会経済情勢は、雇用・所得環境の改善が進む中、政府の各種施策の効果もあり、緩やかな回復基調が続いているとされています。政府は、成長軌道を確認なものとし、少子高齢化に対応するため、「人づくり革命」と「生産性革命」を柱とする新しい施策を示しております。本町においても「河合町街再生総合戦略」に位置付けた施策に取り組み、河合の魅力を発信し、新しい人の流れを作るとともに、若い世代が希望を持てる町づくりの実現に向けた取り組みを押し進める必要があります。

平成30年度の本町は、人口減少や少子高齢化の影響などにより、町税収入の大きな伸びが見込めないことや、社会保障関連経費の増大、公共施設や社会インフラの老朽化対策などが見込まれるなど、引き続き厳しい財政運営が予想されますが、財政健全化への取り組みを最重要課題とする一方で、厳しい財政状況のなかにあっても、一定の行政水準を保ちながら、町の将来を見越した、人口の流出抑制や流入促進のための施策を着実に進める必要があることから、事業の必要性や優先順位を見極め、厳しい選択により限られた財源を優先度の高い事業へ重点的に配分することを基本として予算編成に取り組んだところであります。

その結果、一般会計当初予算の総額は、75億2千万円で、前年度に比べ13億6千5百万円、22.2%の増額となっております。

それでは、30年度の町政運営の基本的な方針について述べさせていただきます。

## 第1に、街の活性化に向けた取り組みの推進です。

河合町街再生総合戦略の中間年である昨年度、事業の進捗や効果検証を実施すると共に、様々な世代から多くの意見をいただきました。また、「河合町の花嫁」と題し取り組んだテレビお見合い番組の全国放送を来月に控え、まさに「いま」が河合町の知名度を飛躍的にあげられる好機ととらえ、各種事業に取り組んでまいりたいと考えています。

そのひとつとして、大輪田駅前のUR都市機構の住宅に入居した学生に家賃補助を行い、町や自治会活動の一翼を担ってもらうとともに、学生の情報発信力にも期待した「学生さんいらっしやい」事業を展開してまいります。これを契機に、河合町を将来の定住地として意識してもらうことも期待できると考えております。

次に、近鉄田原本線開通100周年イベントです。来月4月26日に旧大和鉄道が開通してちょうど100年を迎えます。本町には、3駅があることと併せて、森本千吉氏という深いご縁のある先達がおられます。鉄道を開通することで地域を発展させたいという意志を受け継ぎ、また、河合町のリージョンプロモーションに資するため、各種イベントを展開してまいります。

最後に、より親しみやすく河合町の歴史を学ぶと同時に、郷土愛を育むことを目的とした、漫画による河合のまち再現事業であります。昭和初期の川合・市場地区の街並みを再現し冊子にまとめたものをベースに、ストーリー性を加え当時の生活を漫画化するものです。

なお、継続して「かわい浪漫プロジェクト」「すむ・奈良・ほっかつ！移住プロジェクト」「自治会ニュースコンクール」「映画優待券事業」などにも意欲的に取り組んでまいります。

## 第2に、福祉、教育環境の充実であります。

子どもや、高齢者、障害者の方々が円滑な日常生活や社会生活を送ることができる、まちづくりを進めるための「保健・福祉施策」であります。幼児教育と保育の充実を目的とした「幼保連携型認定こども園」につきまして、平成32年4月の開園を目指し、就学前の子ども達への教育・保育サービスの拠点として、緑豊かな馬見丘陵公園に隣接した優れた環境の元で、多様化、複雑化する保育ニーズなどにきめ細かに対応してまいります。

また、地域包括支援センターの機能強化を図り、医療、介護、予防、福祉・生活支援サービスが切れ目なく提供される地域包括ケアシステムの構築を進めるとともに、これからの高齢者があらゆる世代の皆さまとともに豊かにいきいきと暮らせる地域共生社会をめざして、第7期介護保険事業を進めてまいります。

さらに、平成30年度からの国民健康保険制度の県単位化につきましても、着実に対応してまいります。

次に、学校再編につきまして、平成32年4月に第二小学校と第三小学校を統合するべく、再編準備委員会を設置し、PTA、地域の方々に参加していただき協議を重ねているところでございます。また、第二小学校の老朽化対策として、平成30年度から3年計画で改修を行ってまいります。

また、教育の充実として、障害のある児童生徒に対して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を克服できるよう、必要な支援を行うため、講師又は支援員を配置してまいります。

さらに、ICT教育推進のため全小学校にタブレット端末を整備いたしました。今後、小学校において英語の教科化やプログラミング教育なども始まりますので、引き続き教育の充実を図ってまいります。

### **第3に、安心で安全なまちづくりであります。**

昨年7月から、町内循環ワゴン「すな丸号」の運行を開始したことにより、町内の買い物や通院、公共施設への移動など、住民の皆様様の日常生活の基本となる移動手段が確保できたものと考えています。これからもルートや停留所の見直しなど、利便性の向上に努めてまいります。

昨年の台風21号による長雨の影響で大和川が増水し内水氾濫が発生、川合地区など10地区に避難指示が発令され、多くの方が避難所で不安な夜を過ごされました。

大雨による河川の氾濫は、大和川流域に暮らす私たちにとって大きな問題であり、国土交通省、気象台と流域自治体で構成する「大和川上流部大規模氾濫に関する減災対策協議会」で策定されている「大規模氾濫域の減災に係る取組方針」に基づき、減災のための対策を一体的・計画的に推進してまいります。

防災行政無線は昨年12月からデジタル波で運用を開始し、情報の収集と発信の多様化が可能となりました。これに伴い、戸別受信機に替わる新たな情報伝達方法として、登録メール配信、固定電話及びファクシミリへの配信システムを導入し、普及促進に取り組んでおりますが、更なる周知に努めてまいります。

また、災害時に対策拠点となる本庁舎の耐震補強工事については、平成31年3月末の完了予定で進めています。工事期間中、町民の皆様方にはご迷惑をおかけする事になりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

さらに、上水道事業につきましては、かねてよりの懸案事項である西大和既存配水タンクの除却工事と、県営水道の第2受水池となる、第1配水タンク更新基本計画策定業務を実施してまいります。

平成30年度の町政運営につきまして、私の所信の一端を申し述べました。本方針に基づき、今定例会に提案させていただいております「平成30年度当初予算案」をはじめ、各議案につきまして、ご審議の程よろしくお願い申し上げます。

当町におきましても依然として厳しい財政状況に直面しておりますが、厳しい財政状況にあっても、今本当に必要なものについては、勇気をもって推し進めていく所存でございます。

ここに重ねて、議員の皆様方をはじめ、町民の皆様方の温かいご理解と一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます、施政方針並びに招集のあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。